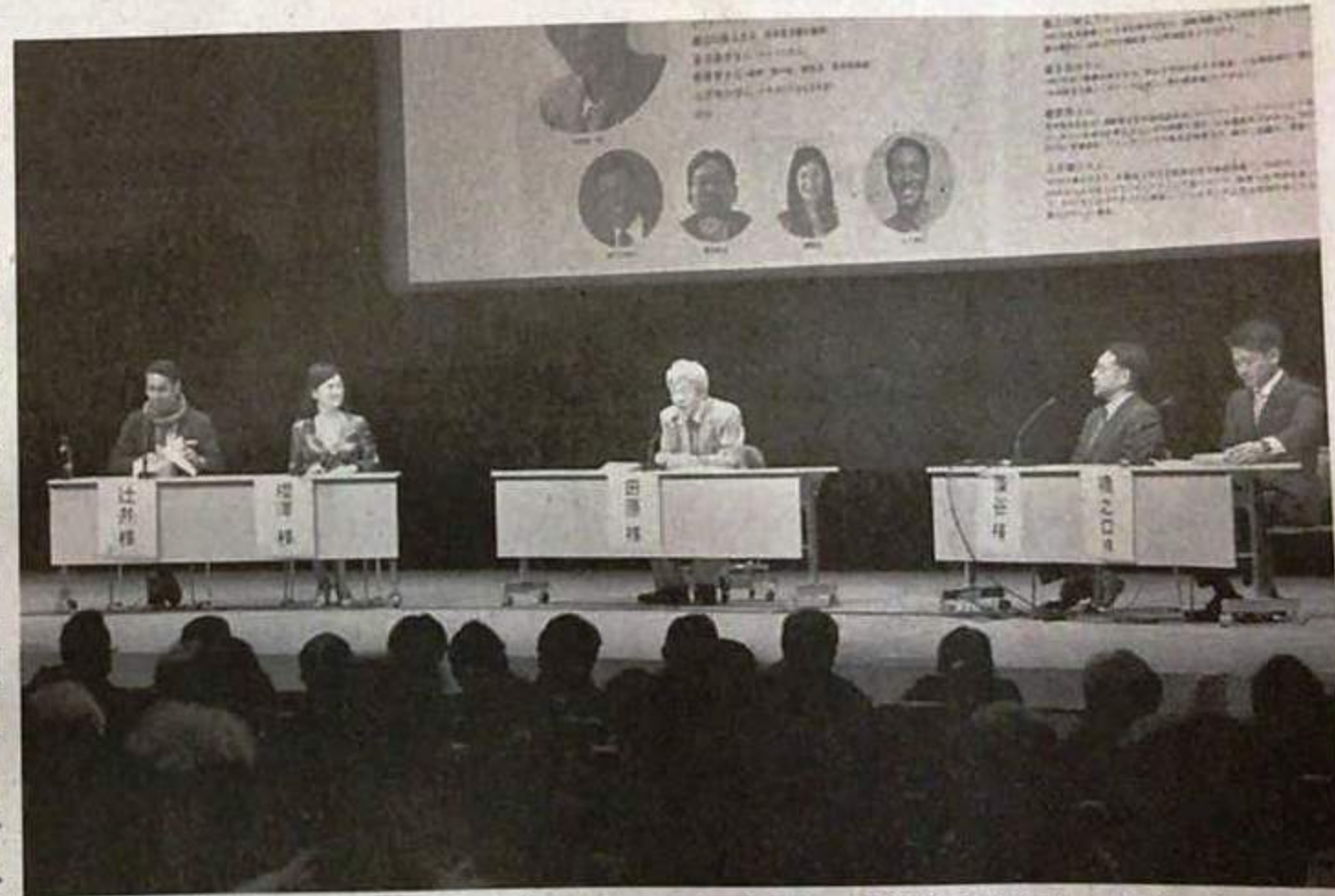


# 佐世保の魅力や課題 パネリスト4人が議論

## 田原総一郎さん司会でシンポ



田原総一郎さん（中央）を司会に議論が交わされた  
シンポジウム

佐世保市三浦町のアルカスSASEBOで9日、「ふるさと共創シンポジウム」が開かれた。ジャーナリストの田原総一郎さんが司会を務め、登壇したパネリスト4人が佐世保の魅力や課題を議論し、市民ら約450人が耳を傾けた。

一般社団法人「ストーンスープ」が主催。具体的なテーマを設定せず、自由に議論が行った。「里山資本主義」で知られる日本総

合研究所主席研究員の藻谷浩介さんは「佐世保市や長崎県は美しい海と山があり、食事もおいしい。幕の内弁当のように何でもそろっている」と述べた。佐世保出身の女性実業家、櫻澤香さんは「海外の富裕層を乗せた中型のクルーズ船を誘致し、自然を体験してもらうツアーを組めば佐世保の魅力を一層発信できる」と提案した。

県と佐世保市が川棚

町に計画する石木ダム事業にも触れ、パタゴニア日本支社長の辻井隆行さんは「水没予定地には現在も13世帯の方が住んでいるが、本当にダムが必要か議論は尽くされていない」と主張。橋之口裕太市議は「市水道局は全国平均よりも低く1人当たりの水使用量を見積もっており、でたらめな水需要予測を立てているとは思わない」と述べた。

【浅野孝仁】